

I 第39週の発生動向 (2009/9/21~2009/9/27)

- インフルエンザについて、迅速診断キットによる各保健所管内の内訳は、青森市 (A:13 人)、弘前 (A:5 人)、八戸 (A:6 人, 不明1 人)、五所川原 (A:1 人)、上十三 (A:15 人) でした。
- 手足口病については、むつ保健所管内において、前週に引き続き**警報**が、発令されています。

II 第39週五類感染症定点把握 注：五類感染症定点把握疾病の警報・注意報については、二次保健医療圏単位で判定しています。

疾患名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数	東地方(再掲)		青森市(再掲)		保健所名	定点数						
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点		数	定点	数	定点		数	定点	インフルエンザ(内科+小児科)	小児科	内科	眼科	基幹
小児科 内科 (85) インフルエンザ	13	0.9	5	0.3	7	0.5	1	0.1	15	1.7			41	0.6	-8	1	0.5	12	1.0								
小児科 (74) RSウイルス感染症			2	0.2	1	0.1			1	0.2			4	0.1	-5												
(75) 咽頭結膜熱									1	0.2	2	0.5	3	0.1	-1												
(76) A群溶血性レンテ球菌咽頭炎	2	0.2	6	0.7	2	0.2	3	0.6	3	0.5			16	0.4	-14			2	0.3								
(77) 感染性胃腸炎	16	1.8	3	0.3	6	0.7	4	0.8	2	0.3	6	1.5	37	0.9	-15	3	3.0	13	1.6								
(78) 水痘	3	0.3	4	0.4	2	0.2	6	1.2			1	0.3	16	0.4	-8	1	1.0	2	0.3								
(79) 手足口病	6	0.7	4	0.4	3	0.3	2	0.4	17	2.8	16	4.0	48	1.1	-50			6	0.8								
(80) 伝染性紅斑	3	0.3							1	0.2			4	0.1	-6			3	0.4								
(81) 突発性発しん	6	0.7	3	0.3	4	0.4	1	0.2	1	0.2			15	0.4	5			6	0.8								
(82) 百日咳															-1												
(83) ヘルパンギーナ			3	0.3					2	0.3			5	0.1	-4												
(84) 流行性耳下腺炎	3	0.3	1	0.1	2	0.2			2	0.3			8	0.2	-6			3	0.4								
眼科 (86) 急性出血性結膜炎															0												
(87) 流行性角結膜炎															-7												
基幹 (95) マイコプラズマ肺炎					6	6.0					4	4.0	10	1.7	3												

は警報、は注意報。「空欄」：患者発生無し。

III 表II以外の感染症法対象疾患 (注：届出数は速報値です)

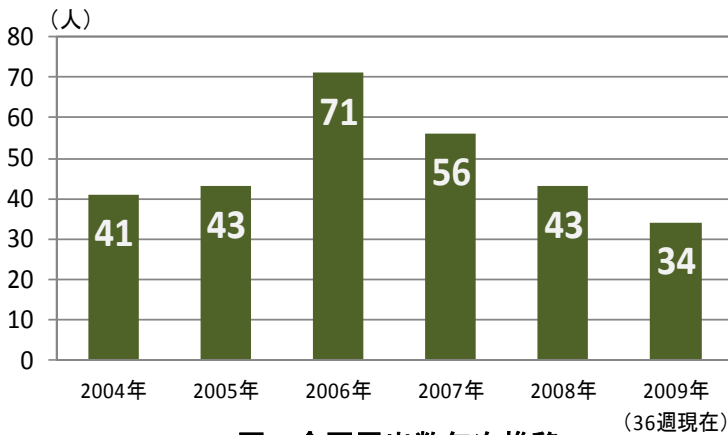
- (9) 結核(二類全数把握疾患)：八戸1人、五所川原1人 (21年計：256人)
- (14) 腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患)：八戸1人 (21年計：31人)

過去の全数把握疾患については、月報をご覧ください。

感染症の窓

E型肝炎

(四類全数把握)



E型肝炎は、1999~2003年11月4日まで、急性ウイルス性肝炎として報告されてきました。11月5日以降は、単独疾患として四類感染症全数把握の対象疾患となっています。2009年第38週の弘前保健所管内において、E型肝炎1人の届出がありました。同保健所管内においては、2008年2月(1人)と10月(1人)にも届出がありました。全国的には、2006年が71人と最も多く、

2007年以降は、減少傾向で推移しています(図)。本疾患は、3~8週間の潜伏期間の後、全身倦怠感、発熱、食欲不振、黄疸、肝機能異常などを呈します。感染はE型肝炎ウイルスに汚染された食物、水等の摂取によることが報告されています。予防方法は、豚レバーを含む豚肉、シカやイノシシなどの野生動物の肉は生で食べないこと、調理する場合は、中心部まで火が通るよう十分に加熱して食べること、生の肉類と加熱済みの肉類などは箸や皿を区別して使用するなどの注意が必要です。